

英語スピーキングの指導と評価

研究の概要

- 英語で会話をするには、正確さや流暢さ等「言語能力」が必須ですが、それだけでは英語で会話ができるようにはなりません。話をふくらませたり続けたりする「対話能力」が欠かせないのです。
- 「対話能力」を向上させるにはどうすればよいか、小・中学校で行われているSmall Talkという活動を用いて「対話能力」を向上させる方法を研究しています。
- 「対話能力」を評価するには、教師やALTと話す「面接型」テストと学習者同士が話す「対話型」テストがあります（図1参照）。小・中学生の「対話能力」を評価するには「面接型」テストと「対話型」テストのどちらが適切なのかを研究しています。
- 研究の成果は、県や市町が主催する教員研修に活かしています。

教師や面接者と話す
「面接型」テスト



学習者や受検者同士が話す
「対話型」テスト



図1. 対話能力を評価する2つのテストの型



連携アピール



- 10年以上にわたり、県市町・小中学校主催の公開授業の助言者や教員研修の講師を200回以上担当しました。
- 現在、英語のスピーキング力、とりわけ双方向で話す「やり取り」の力（対話能力）を向上させるための指導と評価を研究しています。

キーワード



- 小・中学校外国語教育
- 英語の授業づくり
- 話すこと [やり取り]



研究者



川村 一代 教授

Kazuyo Kawamura



文学部 コミュニケーション学科

